

更なる外国人材の定着・活躍に向けて 現場も含めた異文化理解を

製造業

株式会社 馬印

従業員数 / 70名(うち外国人材9名)

所在地 / 名古屋市中区山王三丁目16番27号

H P / <https://www.uma-jirushi.co.jp/>

資本金 / 5,000万円



外国人材の採用を考え始めたきっかけ

中国や韓国とのビジネスがきっかけです。優秀な中国人留学生と出会い、外国人社員の採用を10年ほど前に行いました。その他に、ベトナムから技術者としての雇用や外国人技能実習生を受け入れています。

採用ルート

人材紹介会社と
監理団体の斡旋
による

支援メニュー



日本人社員向け
「伝わる日本語」研修

20P



中級・上級レベルの
ビジネス日本語教室

30P

外国人材の業務内容

中国籍社員(現在は永住者の在留資格に変更)は資材の輸入と製品の輸出調整など。
技能実習生は、工場では黒板製造などの実習を行っています。

支援前の課題



採用

- ・在留資格について行政書士に詳しく聞きたい
- ・外国人材の採用・選考フローにおける注意点を知りたい
- ・外国人材の受入れまでに準備すべきことを知りたい



定着

- ・採用に至ったが、長く続かない
- ・メンターを通し、抱えている悩みや要望をヒアリングしたい
- ・仕事に関してどう接すればよいかわからない



自走化

- ・外国人材に関する自社での社内研修や環境の充実化を行い、整備したい
- ・外国人材のための自社メンターを配置したい



中国籍の高度外国人材の社員は日本語能力も高くコミュニケーションにおける課題は全くなかったのですが、ベトナム籍の技術者と外国人技能実習生については、日本人作業者との間に言葉による行き違いや、伝え方による齟齬などがあり、大きな壁があるように感じていました。

専門家による支援と企業の取り組み内容

この支援のうち、とても魅力を感じたプログラムは、外国人材向けのビジネス日本語教室でした。これまでも外国人材への日本語教育や、日本人社員向けの異文化理解を目的とした社内研修を行ったこともありましたが、どちらも上手く軌道には乗らず、課題を感じていました。

○日本語が伝わる喜びを感じ、コミュニケーションを円滑に

自社では定期的な開催も難しかった日本語教室も、外部の専門家が入ることで週に1回のペースで2つのクラスで各10回ずつ実施することができました。また、レッスンを通して日本語力向上の手助けだけでなく、支援の後に外国人材がこれまで以上に自分たちの日本語が伝わる喜びを感じ、業務をする上で円滑にコミュニケーションを取ることができるようにしたいと考えていました。

先生の手厚い授業のおかげで、彼らからは「もっと勉強したい!」「もっとレベルの高い授業を受けたい!」という声もあがり、支援の後も自主学習の意欲向上に繋がったと感じています。

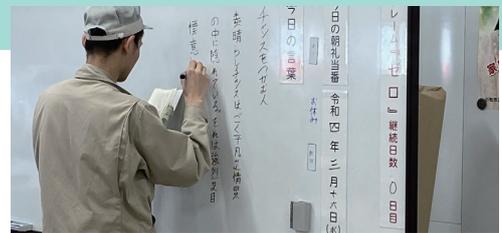
○外国人材への細かな配慮が定着に繋がる

日本人社員向けの「伝わる日本語」研修では、専門家から"社内の言語整備"というアドバイスをいただきました。研修後は、社内の書類や朝礼時の言葉にフリガナをふるなど、簡単なことからではありますが、アドバイスを受け、取り組めるものから実施をしています。

今後、ベトナムへの進出も考えており、日本側で育てたベトナム人社員に現地で活躍してもらい、現地の品質改良等も進めていきたいと考えています。

外国人材の方からの声

先生にたくさんレッスンしてもらい、日本語を勉強することの大切さ、楽しさを実感しました。今後入社してくるベトナムの後輩がいたら、仕事や生活のことの通訳や、アドバイスをしてあげたいと思うようになりました。自分が会社で学んだことを、後輩にも残していきたいです。



企業からの一言 (代表者もしくは人事担当者)

外国人材は、言葉や習慣の違いにより日本人とのコミュニケーションが上手くできないがために、最初は会社全体の生産性が落ちることもあります。しかし、日本で働こうという強い意思を持つ彼らは、意識が高く次第に能力も向上します。

その時に大切なことは日本人と外国人のコミュニケーションです。彼らの能力が早く芽生え、活かす環境作りが企業において重要だと考えています。

